

Local Craftsmanship

— 職人技に見る日本のものづくり —

日本全国の各地域には、地域の風土や特色を活かしながら伝統を築き
先端の技術へと発展させているものづくりの技術が数多くあります。

有識者2名の方を講師に招き、技術史の歩みからみる日本のものづくり、
伝統的な職人の技、日本のものづくりの文化をご講演いただきます。

2022年11月19日(土) 15:00

YouTube “TIEC&HIH channel 2” で配信スタート!

視聴無料(どなたでもご視聴いただけます) / 事前申込不要 / 言語: 日本語・英語

YouTube「TIEC&HIH channel」ホームはこちら>

日本語



英語



第一部 (約30分) 『日本の工業(モノづくり)と風土』 鈴木一義氏

元国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長

研究対象は、日本における技術の発展過程。特に江戸時代から現代にかけての技術の発展状況を、博物館的な実物資料の視点から実証的な見地で調査、研究。



第二部 (約30分) 『包丁と燕の地域産業』 小川真登氏

藤次郎株式会社 藤次郎ナイフギャラリー責任者

新潟県燕市、庖丁製造の藤次郎株式会社に入社。プロダクトデザインとグラフィックデザインを手がけつつ、営業も兼任。商品知識を深めるために作成したHPが包丁業界でも評判を呼び、2000年包丁メーカーとして初となる公式サイトでの庖丁販売を開始する。その後、2015年より庖丁製造を間近で見学できる複合施設「藤次郎ナイフギャラリー」の責任者として、包丁を販売するかたわら施設内外を問わず、製造や庖丁の知識について、来場者に分かりやすく説明する活動を行っている。



第三部はTIEC&HIH入居者限定プログラムです!

第三部 (約30分) 『日本の鋳物職人—能作の歩みと今後について—』 能作克治氏

株式会社能作 代表取締役社長

富山県高岡市には400年前から伝わる伝統産業「高岡銅器」の技術がある。能作は1916年の創業以来、その技術を用いて銅合金製の仏具や茶道具、近年では錫製のテーブルウェアやインテリア製品を鋳造している。2002年の代表取締役社長就任時と比較し社員15倍、売上10倍、8年連続10%成長を営業なし、社員教育なしで達成。地域と共存共栄しながら利益を上げ続ける仕組みが各種メディアで取り上げられている。

